

No.113
2013
Summer

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication



CONTENTS

八戸工業大学

- p2-3 JABEE 認定・防災技術社会システム研究センター・災害公営住宅・新入生オリエンテーション
- p4-5 卓球部インカレ出場・就職懇談会・体育祭・五月展・picot・受賞／表彰・資格試験合格者・新同窓会長・教育研究後援会
- p6-7 名誉教授・学会賞・新相談員・同窓生の集う会・公開講座・工大祭・オープンキャンパス・進学相談会・行事予定・保護者懇談会・平成26年度入試日程
- p8-9 **カラーページ「高総体」敢闘杯獲得**

八戸工業大学第一高等学校

- p10-11 高総体を振り返って・高総体結果一覧・クリーン白銀・生徒総会・性教育講座・企業訪問を終えて・授業公開・交通安全教室

八戸工業大学第二高等学校

- p12-13 高総体・高総体ポスター最優秀賞・アメリカ高校生交流行事・EU加盟国大使による講演会・種差ボランティア・清掃奉仕活動・イベントに参加・日本画講習・同窓会開催

さくら幼稚園

- p14-15 うんどうかい・かたぐるま・ようちえんってこんなところ・とらんぼりん

- p16 理事会／評議員会・編集後記

工学部全学科 JABEE 認定 継続的な教育改善が認められる

バイオ環境工学コースが JABEE に認定

JABEE（日本技術者教育認定機構）より4月26日付で2012年度の新規認定プログラムが発表され、バイオ環境工学プログラムが工学（融合複合・新領域）関連分野で認定されることになりました。この認定の結果、本学工学部の全学科は JABEE 認定のプログラムを有することになり、本学の各分野の工学教育が社会の要求水準を満たすものであることが第三者機関により正式に評価されたことになります。全学科に認定プログラムを有する大学は全国でも稀なケースです。

さて、バイオ環境工学科は2009年度にカリキュラムを改定し、技術士を目指すコースとしてバイオ環境工学コースを設定しました。このコースは環境にやさしいものづくり等をはじめとする、環境調和技術についてバイオ・環境・工学の広い視野より学習し、社会や産業の持続的な発展に積極的に貢献できる人材の育成を目標としています。工学（融合複合・新領域）関連分野は、いくつかの専門工学の基礎的な知識技術を基盤としており、本プログラムはこの分野での受審となりました。2012年度修了生から、技術者最高の資格である技術士の一次試験が免除となりますが、コース修了生が様々な環境問題の克服に力を尽くし、環境と調和した未来を切り開いて行くことが期待されます。

バイオ環境工学科長 若生 豊（教授）



土木工学コースが継続審査に合格

土木建築工学科「土木工学コース」は、2002年度から国際水準を満たす教育プログラムであるとして JABEE から認定を受け、今回5年ぶりに継続認定審査が実施され合格し、改めて認定を受けました。

これまで「土木工学コース」（2002年度当時の名称は「環境建設工学科コース」）で学び、JABEE プログラムの修了生となった学生は590名に上ります。これら修了生は、「修習技術者」として認定され、技術士一次試験が免除される非常に有益な資格を有することになり、各自が申請することで「技術士補」の資格を持つことができます。

ところで、「土木分野」で JABEE 認定を受けた教育プログラムは、2002年度が初めてでこの時認定された大学は、全国でわずか8校（プログラム）でした。本コースでは以来現在まで、認定教育プログラムの教育改善に努め、特に最近注目されてきた「エンジニアリングデザイン能力」を学生に身につけてもらうための科目「土木総合デザインⅠ・Ⅱ」を新たに設けて「課題解決能力」を養い、実社会で直面する様々な課題に対して臨機応変に対応できる能力の向上を目指して参りました。

土木分野で卒業時に「技術士補」の資格をもつことは、難易度が極めて高く実務者が「最も役立つ資格」と答えている国家資格「技術士」の資格取得を早めています。本学科では、卒業生が実社会にでてから更に活躍できるよう、今後も認定維持に努めて参ります。

土木建築工学科長 竹内 貴弘（教授）

文部科学省「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」

地域の知の創造拠点として活動を継続 防災技術社会システム研究センター

平成23年4月、東日本大震災を受け、本学に地域の復興のための技術開発・支援と連携教育の推進を目的とする防災技術社会システム研究センターが設立され、これまで地震動・津波被害・災害廃棄物の調査、市民向けの活動報告会・国際防災フォーラムの開催、環境放射線のモニタリング活動などを行ってきた。

本センターの活動は、文部科学省の事業「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」に採択され、5ヵ年計画の3年目となる。今年度は、中間報告会やこれまでの活動を検証するための外部評価が予定されている。また、八戸市の震災復興計画を支援するため、防災技術に関する研究活動や地域放射線計測観測活動、創造的復興のための地域連

携教育の推進・情報発信活動などが進められることになっている。

一方、本センターの活動を広く社会に発信することを目的に、昨年3月11日に八戸市中心街の商業ビル「ヴィアノヴァ」2階に、市民を対象にしたサテライトをオープン。このサテライトでは、毎週土曜と日曜に「HIT ウィークエンド」というイベントを開催。教員によるミニ実験や研究発表を行っている。その他、移動型太陽光発電装置を常設展示、簡易放射線測定機器の貸出しや研究資料の配布、出張講義の案内、市民が持ち込んだ食品や土壌、水などの放射性物質を測定するサービスも行なわれ、情報発信の拠点としてまた市民との交流の場として、更なる有効活用が期待されている。

月舘敏栄教授が全面協力 八戸市の災害公営住宅

東日本大震災の被災者のために八戸市が市内に建設を進めていた災害公営住宅のうち、白銀町雷（いかずち）の7戸が4月26日に完成し、入居する被災者らを取材した様子が報道された。八戸市の災害公営住宅は、白銀町雷のほか多賀台、白山台、新井田道の4か所に計62戸建設され、白銀町雷の住宅は八戸市から依頼された土木建築工学科の月舘敏栄教授が、設計から完成に至るまで大きく関わってきた。また、そこに設置された2基のベンチは、月舘教授の指導で建築デザ

イン研究会（ADL）のメンバーである学生達が、被災した防潮林のクロマツを用いて製作したものである。竣工前の23日に行われた見学会には、同学科の学生らが参加し、完成間近の住宅の外観や内部の対面キッチン・続き間などを見て回った。



キャンパスライフをサポート 平成25年度新入生オリエンテーション

新入生オリエンテーションが、5月10日～11日、1泊2日の日程で行われた。

毎年5月中旬に学外で実施されているこのオリエンテーションは、各学科が新入生に大学生としての自覚と連帯感を培ってもらうことを目的に、それぞれ趣向を凝らしたプログラム

で実施している合宿研修会である。新しい出会いの場となるこのオリエンテーションは、新入生が大学生活に必要な事柄を習得する良い機会となっており、今年も見学やレクリエーションを通して親睦を深めた。

機械情報技術学科

トヨタ自動車東日本(株)岩手工場・シチズンマシナリーミヤノ(株)北上事業所・(株)ツガワ北上工場見学、ボーリング大会(花巻市)など



バイオ環境工学科

岩手県立博物館・(株)「あさ開き」工場・奥中山高原農協乳業工場見学など



電気電子システム学科

松川地熱発電所・御所ダム／御所発電所・地場産業センター・小岩井乳業／小岩井農場見学など



土木建築工学科

八戸南環状道路是川トンネル・しもきた克雪ドーム・大湊水源地公園・かまふせパノラマライン・三内丸山遺跡・青森県立美術館・城ヶ倉大橋・新渡戸記念館・十和田市現代美術館(車中)見学など



(学科 HP5月20日記事参照)

システム情報工学科

東日本大震災の被災地(野田村・普代村・田老町・八戸市)北山崎・田野畑民族資料館・思惟大橋・久慈琥珀博物館見学など



(学科オフィシャルブログ5月15日記事参照)

感性デザイン学科

岩手県立博物館・杜の住宅公園ミライエ・岩鑄キャスティングワークス・岩手県立美術館・石神の丘美術館／彫刻公園見学など



(学科フェイスブック5月10日記事参照)



進撃続く卓球部 インカレ出場5年連続12回目

5月17日～20日、「平成25年度東北学生卓球連盟春季リーグ戦男子団体一部リーグ」(宮城県塩釜市)に出場した卓球部が、団体戦で準優勝し、6月27日～30日、愛知県豊田市で開催される「第83回全日本大学総合卓球選手権大会団体の部」に5年連続12回目の出場を果たした。また、同時に開催された「第66回東北学生選手権」のダブルスで、松浦善幸(システム情報工学科3年/福島・小野高)吉野裕規(バイオ環境工学科3年/北海道・北見柏陽高)組が準優勝し、個人でも吉野さんが準優勝、松浦さんが5位となった。これにより11月13日から開催される「第80回全日本大学総合卓球選手権大会個人部」に、東北学連の推薦によりダブルスとシングルへの出場が決定、活躍が期待される。



第1回学生と企業との就職懇談会

5月23日、東京で開催された就職関連のセミナーに出席した際、次世代のキャリア教育についての講演がありました。そこで、企業と学生のマッチングは職種よりも企業における仕事のやり方で決まり、就活は業種選びより会社に就くという「就社」が大切だとのお話がありました。つまり、企業の中で社会の価値観やキャリアチェンジに対応できる能力を開発するためには、継続性や主体性を有する行動が重要であることを示唆しており、学生にも普遍性の高いキャリアを意識して日々の学業に取り組んでもらいたいと感じた次第です。

昨年度、東日本大震災の影響が尾を引く厳しい社会情勢の中でスタートした就職活動ではありましたが、本学の就職内定率は94.3%と堅調な結果を残すことができました。

一転、今年はアベノミクスによる経済効果が期待される中で、5月16日・17日の両日、本学において「平成25年度第1回学生と企業との就職懇談会」が開催されました。参加企業数は、昨年5月の懇談会に比べ10%ほど増加しており、学生の就職活動状況も大きく好転の兆しが感じられます。今年度は、4年生と大学院生を対象に8月、3年生を対象に12月と2月にそれぞれ就職懇談会を開催します。就職活動は、時期



学務部次長 阿波 稔(土木建築工学科教授)

の経済状況に大きく影響されることは否めませんが、仕事をする上で必要とされる社会人基礎力を身に付け全員の一日も早い就職内定を応援しています。

体育祭を終えて 第42回体育祭

5月22日に行われた第42回体育祭は、絶好のスポーツ日和でした。5月に入っても天候が不順で心配しましたが、この日は素晴らしい好天に恵まれました。昨年は雨のため屋外の競技が中止になってしまいましたが、今年は皆が待ち望んでいた競技をすべて実施でき、どの会場も賑やかな歓声が沸き起こっていました。



各学科からは、学年を超えて多くのチームに参加していただきました。白熱した試合も多く、さらに各サークルの皆さんのサポートのおかげで、全日程を無事に終了することができました。

来年は、各サークルとの連絡を密にし、より多くの皆さんが楽しめる体育祭を目指したいと思います。

体育会会長 伊藤 領馬
(バイオ環境工学科3年/山形・山形工高)

文化系サークル「五月展」

5月27日から31日まで、文化系サークルの活動を紹介する恒例の「五月展」が、教養棟1階学生ホールで開催された。

今回参加した団体は、ARTSTECH 研究部、文芸愛好会、映像研究部、建築デザイン研究会(ADL)、電創部、美術研究部、ゲーム研究部、プラモデル研究会、落語研究会の9団体。フロアに設けられた各部のブースには、活動の様子を紹介するパネルや作品、模型などが並べられ、学生達はそれぞれのブースの前に立ち止まっては、ディスプレイに写し出された映像作品などを、興味深そうに見入っていた。

八戸警察署から「picot」に委嘱



6月4日、八戸警察署において、小・中学生の万引き・薬物使用の防止や非行からの立ち直りのための支援活動を行う平成25年度の「八戸地区少年非行防止

JUMP チーム」と「青森県少年サポートボランティア『picot』(大学生ボランティアの愛称)」の委嘱状交付式が行われた。本学では、ボランティア愛好会のメンバーが「picot」として活動をしている。今回委嘱されたメンバー8名は、これから放課後などを利用して非行防止のためのキャンペーン活動などに取り組むことになっている。

【メンバー】 腰山将(システム情報工学科4年/岩手・岩手高) 杉澤森都(システム情報工学科3年/青森・十和田工高) 下川原靖昭(機械情報技術学科3年/青森・八戸工高) 天内薪(機械情報技術学科2年/青森・木造高) 齋藤太貴(システム情報工学科2年/山形・庄内農高) 松林裕也(システム情報工学科2年/青森・三沢高) 斉藤興准(電気電子システム学科2年/青森・青森工高) 柴田顕人(バイオ環境工学科2年/青森・青森中央高)

松ヶ崎成さん 「電気学会論文発表賞B」



博士前期課程電子電気・情報工学専攻の松ヶ崎成さんが、昨年8月30日・31日、

秋田県立大学本庄キャンパスで開催された平成24年度電気関係学会東北支部連合大会で発表した論文が「電気学会論文発表B」に選ばれ、4月24日に表彰された。論文名は、「軟質系樹脂を添加し熱処理を施したポリ乳酸の機械的および絶縁破壊特性」。

建築デザイン研究会「クラブ賞」

5月23日、建築デザイン研究会（ADL）に、女性の人権や地位向上に取り組む公益財団法人ソロプチミスト日本財団S I 八戸（大沼サチ子会長）から、「クラブ賞」が贈られた。

今回の受賞は、同研究会が行った地元小学校における防災教育や東日本大震災で被災したクロマツを用いたベンチの製作などのボランティア活動に対して贈られたものである。



八戸工業大学同窓会 新会長就任



6月15日、八戸工業大学同窓会代議員会が、八戸パークホテルを会場に開催された。今年度は、役員改選期

となっており、連合同窓会の時代から5期15年にわたって会長を務められた白川直人氏（昭和54年度建築工学科卒）に代わり、福士信雄氏（新任・旧副会長、昭和51年度電気工学科卒）が新会長に就任し、副会長に浅利能之氏（新任・旧理事、昭和51年度電気工学科卒）と齊藤克治氏（再任、平成14年度システム情報工学科卒）が、選任された。

国家検定「2012年度後期技能検定試験」 2級合格者

◇機械保全機械系保全作業 機械情報技術学科27名

（4年） 大坂谷高寛（4年／秋田・男鹿海洋高）佐藤翼（4年／秋田・角館高）田中亮（4年／青森・八戸工大一高）米田洋介（4年／青森・青森工高）
（3年） 石橋晟人（3年／秋田・湯沢商工高）伊藤祐也（3年／青森・黒石高）小田桐憂幸（3年／青森・五所川原工高）川崎仁嗣（3年／岩手・種市高）小村亮介（3年／青森・八戸工高）佐々木隆昌（3年／秋田・由利工高）佐藤恭輔（3年／青森・八戸工高）佐藤賢太（3年／岩手・岩谷堂高）佐藤弘一（3年／秋田・御所野学院高）杉本健太（3年／青森・むつ工高）永洞勇樹（3年／岩手・盛岡南高）林達也（3年／青

森・八戸工高）三上元也（3年／青森・青森工高）壬生圭祐（3年／青森・八戸工大一高）

（2年） 岡崎慎也（2年／青森・弘前工高）工藤大聖（2年／青森・弘前工高）佐々木優介（2年／岩手・盛岡大附高）佐々木渉（2年／青森・八戸工大一高）佐藤功規（2年／岩手・盛岡中央高）嶋森健太（2年／青森・十和田工高）浪岡拓也（2年／青森・八戸工大二高）三浦進（2年／青森・五戸高）
（1年） 三浦航平（1年／青森・弘前工高）

（学年は平成24年度）

バイオ技術認定試験合格者 上級1名 中級6名

バイオ技術認定試験の中級は、遺伝子組換え技術や細胞融合技術、生物などの利用技術やこれらを行うための安全管理に関する知識を認定するもの。上級は、生物利用技術を中心にさまざまな技術と知識を持ち、実際にバイオテクノロジーに応用する資質を認定するものである。資格取得者の活躍の場としては、バイオテクノロジー関連企業、製薬メーカー、食品メーカー、化粧品メーカー、公的研究機関、私的研

究機関などがある。

【上級】 武田浩一（3年／青森・八戸工大二高）

【中級】 大木辰郎（3年／青森・八戸南高）沖野哲（3年／青森・八戸工高）笹原謙太（3年／青森・青森西高）附田国明（3年／青森・三本木高）松本紗季（3年／青森・向陵高）村瀬友隆（3年／北海道・白樺学園高）

（学年は平成24年度）

八戸工業大学教育研究後援会

6月3日、八戸プラザホテルにおいて八戸工業大学教育研究後援会が開催された。

初めに、産学官及び本学のステークホルダーで構成する役員会において、（一社）青森県工業会会長の東康夫氏が会長に再任され、役員人事、本年度の事業計画、本学の教育研究活動に関する点検・評価部会の設立に係る規程の改正が承認された。

役員会終了後、承認されたばかりの点検・評価部会が開催され、本学の自己点検評価書とデータ集をもとに、後援会役員の方々と藤田成隆学長をはじめとする本学管理職教職員との間で意見交換が行われた。本学では今回頂いたご意見を反映させ、大学運営の改善と教育の質の向上、地域貢献活動の更なる充実を目指す。



名誉教授称号授与 大内清行前教授

学校法人八戸工業大学は、4月の理事会で「八戸工業大学名誉教授規程」に基づき、今年3月に退職された大内清行前機械情報技術学科教授に、「名誉教授」の称号を授与することを承認、6月19日、学長室において授与式が行われた。

大内教授は、1948年生まれ。平成4年に機械工学科教授として着任され、平成7年大学院教授に就任された。専門は、塑性加工学、材料加工・処理。在職中は、教務部次長、同部長、学生部長を歴任された。

藤澤隆介助教 2012年度優秀論文賞



機械情報技術学科の藤澤隆介助教が発表した論文（他2名と共同執筆）が、「2012年度情報処理学会論文誌数理モデル化と応用優秀論文賞」を受賞した。

この賞は、同誌に掲載された論文の中から特に優秀な著者に授与されるもので、藤澤助教は、6月5日に千代田区の学士会館で開催された2013年度定時総会の席上で表彰を受けた。受賞した論文名は、「フェロモン・コミュニケーションによるロボット群の協調運動」。

気軽に利用してみませんか？

学修支援室に新しい専門相談員就任



5月初旬、学修支援室の非常勤相談員として、高等学校の元養護教諭の松山秀子さんが新たに就任されました。松山さんは、月曜から木曜まで週4日、11:00から18:00まで支援室に常駐し、学生生活や学修全般にわたって学生達のサポートを行うことになっています。この支援室は、相談員が不在でも自習などに利用できます。気軽に部屋を訪れてみて下さい。

八戸工業大学第13回同窓生の集う会

日時：平成25年10月5日（土）17:30～19:30

場所：八戸グランドホテル

〒031-0031 八戸市番町14番地 TEL 0178-46-1234

会費：5,000円

申込先：同窓会本部事務局 dosokai@hi-tech.ac.jp

【支部総会】

関東支部総会（東京）平成25年9月14日（土）

東北支部総会（仙台）平成25年9月28日（土）

秋田支部総会（秋田）平成25年10月26日（土）

（詳細は八戸工業大学同窓会HPに掲載）

2013八戸工業大学公開講座

(1) 災害から命を守る

日時 8月31日（土）14:00～16:30

場所 はちえきキャンパス（八戸市）

(2) サイエンスカフェ in 洋野

「自然の恵み“風と太陽”を活かす！」

日時 9月30日（月）15:00～17:10

場所 洋野町民文化会館（岩手県）

(3) サイエンスカフェ in 秋田

「自然の恵み“風と太陽”を活かす！」

日時 10月5日（土）13:30～15:40

場所 秋田市文化会館内中央公民館

(4) おもしろ電子工房

日時 10月12日（土）9:30～15:30

場所 八戸工業大学電気電子システム学科棟

(5) 自動車のカタログ燃費と実燃費はなぜ違うの？

その疑問に八戸工業大学がお答えします！

日時 10月13日（日）13:00～16:00

場所 八戸工業大学機械情報技術学科棟

(6) GPSデジカメとインターネット活用講座

日時 10月26日（土）9:30～16:00

場所 八戸工業大学システム情報工学科棟

(7) あなたの家は大丈夫？－地震に強い家をつくる－

日時 10月26日（土）13:00～16:00

場所 八戸ポータルミュージアムはっち1階

(8) あべさとこソプラノリサイタル「感性の歌声2013」

日時 11月1日（金）14:30～16:00

場所 八戸工業大学AVホール

(9) 環境中の身近な生き物を調べよう

－顕微鏡をつくって生物をみよう－

日時 11月9日（土）13:00～15:00

場所 青森県観光物産館アスパム5階会議室（青森市）

(10) 環境中の身近な水を調べよう

－酸性・アルカリ性について調べよう－

日時 11月17日（日）10:00～12:00

場所 八戸工業大学バイオ環境工学科棟

(11) 親子で作るクリスマスオブジェ

日時 12月7日（土）14:00～16:30

場所 八戸工業大学感性デザイン学科棟

※日程が変更になる場合があります。詳細は本学HPをご覧ください。



第41回工大祭

FIRST

～新たなる道へ～

10月12日(sat)・13日(sun)

オープンキャンパス2013 きっとみつけるキミの未来

- ・開催日時 7/28(日)・9/1(日)
- ・開催時間 11:00～15:30(10:30 受付開始)
- ・開催内容

大学紹介、入試概要説明、学科紹介ギャラリー、学科体験、学食体験、キャンパスツアー、大学周辺ツアー、学生カフェ、保護者向けガイダンス、ガールズトーク、就職関連コーナー、個別相談コーナー等

※事前予約不要・入退場自由・東北各地より無料送迎バスを運行します。【予約制】

詳細は本学HPにてご案内しております。

体験学習テーマ ①11:30～12:50 ②13:30～14:50

機械情報技術学科

- ①自動車の性能試験と電気自動車乗車体験
- ②ロボット創作体験と機械創造体験

電気電子システム学科

- ①エコな扇風機を作ろう
- ②USBマイコンで温度を測ろう

システム情報工学科

- ①②ゲームプログラミングに挑戦

バイオ環境工学科

- ①遺伝子組換え大豆を判別してみよう！
- ②DNAを抽出してみよう！

土木建築工学科

- ①水処理膜で飲み水を作ってみよう！
- ②折り紙で学ぶ「形と強さ」

感性デザイン学科

- ①Illustratorでオリジナルエコバック
- ②ズームでアート

時間毎に①②いずれかのテーマで行います。

問合せ先(入試部入試課) Tel: 0178-25-8000(直通)

進学相談会スケジュール

開催地	開催日	懇談会場	時間
青森市	9月2日(月)	青森国際ホテル	15:30～18:30
八戸市	9月3日(火)	八戸プラザアーバンホール	15:30～18:30
盛岡市	9月4日(水)	ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング	15:30～18:30
秋田市	9月5日(木)	アルヴェ	15:30～18:30

問合せ先(入試部入試課) Tel: 0178-25-8000(直通)

行事予定 8月～10月

- 8月
- 2(金) 夏季休業開始
 - 20(火) AO入試第1クール前期
 - 26(月) 大学院一般選抜・特別選抜 ～27日(火)
 - 28(水) 第2回就職懇談会 ～29日(木)

- 9月
- 1(日) オープンキャンパス
 - 7(土) AO入試第1クール中期
 - 13(金) 夏季休業終了
 - 17(火) 後期授業開始

- 10月
- 12(土) 工大祭 ～13日(日)
 - 19(土) AO入試第1クール後期

平成25年度保護者懇談会日程

開催地	開催日	懇談会場	時間
盛岡市	8月25日(日)	ホテルメトロポリタン盛岡本館	9:00～13:30
仙台市	8月25日(日)	仙台ガーデンパレス	9:00～13:30
秋田市	8月31日(土)	ホテルパールシティ秋田竿燈大通り	9:00～13:30
弘前市	8月31日(土)	ホテルニューキャッスル	9:00～13:30
青森市	9月1日(日)	ウェディングプラザアラスカ	9:00～13:30
札幌市	9月8日(日)	ホテルサンルートニュー札幌	9:00～13:00
八戸市	9月8日(日)	プラザアーバンホール	9:00～14:00

問合せ先(事務部学事課) 0178-25-8111(直通)

平成26年度入試日程

工学部・感性デザイン学部

A O 入 試	クール		エントリーカード受付期間	面 談 日
	第1クール	前期	平成25年8月1日(木) ～8月6日(火)	平成25年8月20日(火)
		中期	平成25年8月19日(月) ～8月28日(水)	平成25年9月7日(土)
		後期	平成25年10月1日(火) ～10月9日(水)	平成25年10月19日(土)
	第2クール		平成25年11月18日(月) ～11月27日(水)	平成25年12月7日(土)
	第3クール		平成26年2月3日(月) ～2月12日(水)	平成26年2月21日(金)
	第4クール		平成26年3月3日(月) ～3月11日(火)	平成26年3月18日(火)
入 試 区 分			願 書 受 付 期 間	試 験 日
指定校推薦入試			平成25年11月1日(金) ～11月6日(水)	平成25年11月16日(土)
公募制推薦入試 (国公立大併願可)	前期	平成25年11月1日(金) ～11月6日(水)	平成25年11月16日(土)	
	後期	平成25年12月2日(月) ～12月16日(月)	平成25年12月25日(水)	
専門高校入試※			平成26年1月6日(月) ～1月22日(水)	平成26年2月4日(火)
一般入試	前期※	平成26年1月6日(月) ～1月22日(水)	平成26年2月4日(火)	
	後期	平成26年3月3日(月) ～3月11日(火)	平成26年3月19日(水)	
センター利用入試	前期※	平成26年1月6日(月) ～1月31日(金)	平成26年1月18日(土)・ 19日(日)の大学入試セ ンター試験 (本学の個別試験は課さ ない)	
	中期	平成26年2月3日(月) ～2月21日(金)		
	後期	平成26年3月3日(月) ～3月14日(金)		

※学業特待生選考試験を兼ねる

問合せ先(入試部入試課) Tel: 0178-25-8000(直通)

第66回青森県高等学校総合体育大会



八戸工業大学第一高等学校

敢闘杯獲得

2年連続13度目



ソフトテニス部(男子) 2年ぶり35度目



水泳部 6年連続20度目



登山部 10年連続12度目

団体優勝

ソフトテニス部(男女)
水泳部
登山部
バスケットボール部
ゴルフ部

団体準優勝

硬式野球部
ウェイトリフティング部

団体第3位

自転車競技部
レスリング部
ボウリング部
アーチェリー部
剣道部(女子)



バスケットボール部 19年ぶり6度目



ゴルフ部 2年連続3度目



ソフトテニス部(女子) 2年連続14度目

第66回青森県高等学校総合体育大会



男子総合準優勝 「敢闘杯」

獲得

高校総体を振り返って

第66回青森県高等学校総合体育大会が、5月31日から6月3日まで県内の各会場において開催された。本校は闘魂旗奪還を目指したが、2年連続男子総合準優勝という結果に終わった。しかし、優勝種目の中において、登山部が10年連続優勝の偉業を成し遂げたことや、バスケットボール部が19年ぶりに優勝したことは大変喜ばしいことであっ

た。さらに注目すべきことは、女子選手が目覚ましい活躍だった。ソフトテニス部女子の優勝をはじめとして、自転車競技部、レスリング部、水泳部の女子が個人優勝に輝いた。来年は、闘魂旗はもちろんのこと明朗旗の獲得も期待したい。

第66回青森県高等学校総合体育大会 結果一覧

団体優勝

- ソフトテニス部(男子) 2年ぶり35度目
岡崎亨健(3年) 田中拓也(3年) 吉崎理来(3年)
日比俊介(3年) 山村和也(2年) 工藤登生(2年)
小向智博(2年) 西塚悠聖(2年)
- 水泳部(男子) 6年連続20度目
老久保俊太(3年) 吉田将貴(3年) 田村渉(3年)
中村太一(3年) 長畑将希(3年) 田嶋洋平(3年)
松村尚紀(3年) 原航平(2年) 佐貫省吾(2年)
三浦晃太(2年) 宮本丈二(2年)
- 登山部 10年連続12度目
中野翔太(3年) 下向啓太(3年) 高田駆(3年)
下澤貴祐(3年)
- バスケットボール部 19年ぶり6度目
立花龍汰(3年) 鈴木秀平(3年) 若林基生(3年)
中村俊貴(3年) 竹田瑠月(3年) 淡路立人(3年)
南山倫輝(3年) 大山和弘(3年) 菊池誠也(3年)
中村貴仁(3年) 磯谷公哉(2年) 太田昂希(2年)
中野渡紘己(2年) 伏守拓(2年) 佐々木圭(1年)
三上真輝(1年)
- ゴルフ部 2年連続3度目
川崎廉(2年) 横町洸太(2年) 沢上紘一(2年)
島守良誓(1年)
- ソフトテニス部(女子) 2年連続14度目
アライ柚紀(3年) 乙供亜美(3年) 中山瑞貴(3年)
蟹沢歩美(3年) 小向穂乃伽(2年) 石塚咲(2年)

団体準優勝

- 硬式野球部
鶴岡雄喜(3年) 藤原力(3年) 小笠原侑也(3年)
小笠原辰樹(3年) 尾崎真成(3年) 久保英範(3年)
黒澤晋輔(3年) 舩森大地(3年) 長塚辰吉(3年)

- 沼沢未乗(3年) 吉岡幹将(3年) 高橋昌豊(3年)
津取陽陸(3年) 山田翔平(3年) 北田和英(3年)
小向勇太(3年) 磯谷英貴(3年) 蛇名零(3年)
三ヶ森匠(3年) 内山太嗣(2年) 井上貴喜(2年)
- ウェイトリフティング部
小笠原浩樹(3年) 成田直明(3年) 豊田京介(2年)
平野竜聖(2年) 高屋敷航大(2年) 成田佑介(2年)
坂内拓磨(2年)

団体第3位

- 自転車競技部
久松佑輝(3年) 馬渡渉(3年) 小原佑太(3年)
阿部将也(2年) 岩切大知(1年) 佐々木悠人(1年)
佐藤匡哉(1年)
- レスリング部
鈴木高太郎(3年) 松橋拓己(3年) 加賀大輝(3年)
坂本潤(1年) 永田丈治(1年) 田中航平(1年)
西館優(1年) 五戸晋太郎(1年) 中河原瑞樹(1年)
折川頼(1年) 坂田秀生(1年)
- ボウリング部
工藤嘉貴(3年) 三浦実大(2年) 深川広大(2年)
三田翔太(2年)
- アーチェリー部
佐々木孝平(3年) 吉田大成(3年) 川向秀範(2年)
上村賢一朗(2年)
- 剣道部(女子)
鎌田彩花(3年) 葛西さやか(3年) 中村翔子(3年)
高橋明乃(1年)

個人優勝

- ソフトテニス部(女子)
アライ柚紀・乙供亜美

■登山部

山岳気象 下向啓太

■レスリング部

(男子)66kg級 松橋拓己(3年)
(女子)52kg級 太田理奈(1年)
56kg級 関下由希(1年)
60kg級 榎本美鈴(1年)

■水泳部

(男子)100m自由形 原航平
400m自由形 佐貫省吾
100m背泳ぎ 吉田将貴
100mバタフライ 田村渉
800mリレー
佐貫省吾・吉田将貴・三浦晃太・原航平
200m自由形 佐貫省吾
1500m自由形 老久保俊太
200m背泳ぎ 原航平
200mバタフライ 田村渉
200m・400m個人メドレー 三浦晃太
400mリレー
原航平・佐貫省吾・吉田将貴・三浦晃太
400mメドレーリレー
吉田将貴・原航平・田村渉・中村太一
(女子)200m平泳ぎ 平松真帆(1年)

■ボウリング

2人チーム戦 工藤嘉貴・三浦実大

■ウェイトリフティング

55kg級 小笠原浩樹 77kg級 成田直明
94kg級 坂内拓磨 105kg級 成田佑介

■自転車競技

(男子)チームスプリント 久松佑輝・馬渡渉・小原佑太
ポイントレース 小原佑太
(女子)スプリント・500mタイムトライアル 浅坂靖子(2年)



清掃奉仕

「グリーン白銀」

6月4日、爽やかな日差しの中、校外清掃活動である「グリーン白銀」が行われた。この活動は、地域社会への貢献と奉仕の精神を育むことを目的に昭和54年から始まり、今年で55回目となる。日頃お世話になっている白銀地区への感謝の気持ちを込め、生徒と教師が協力して学校・白銀駅周辺の清掃を行った。作業中地域の方から「ご苦労さん」と声を掛けられる場面もあり、自分達が掃除した道を帰るときの生徒の顔は充実感に満ちていた。

生徒総会開催

5月15日、第一体育館で生徒総会が開催され、生徒会からの学校行事案、各委員会からの活動方針を中心に議事が進められた。今年度は、例年になく活発な意見交換が行われ、体育祭や委員会のあり方について質問が出るなど、生徒一人一人が学校活動を考える良い機会となった。



正しい知識を身につけよう



5月21日、第一体育館で1学年を対象に、三戸中央病院の片桐清一副院長を講師にお迎えし、性教育講座が開かれた。男女の性差の違いから起こる様々な問題や、性感染症、人工妊娠中絶など、実例を交えながらの講演内容に、生徒達は真剣に耳を傾けていた。

企業訪問を終えて

不透明な経済状況が続く中、4月と6月に関東方面の企業訪問を実施した。今年の採用状況は、業種別では鉄鋼業が採用予定数を減らし、自動車関係も安定した採用とはなっていない。また、既卒者に関しては飲食関連サービス業での離職者が目立っている。6月下旬には市内の企業訪問も開始し、全体で100社を超える企業を訪問することになる。生徒に的確な情報を提供し、来たる就職戦線に備えていきたい。

授業公開実施

6月13日、今年度第1回目の授業公開を行った。保護者や地域の方々に本校の学習の様子や授業内容を知っていただくことと教職員の授業スキルの向上を目的に実施している。

放課後には学級懇談が行われ、普段家庭で見ることのできない表情に触れたというコメントや、もっと厳しさを求める指摘があった。また、授業公開を前に保護者に学食をご利用いただいた。献立の内容は好評であったが、もっと量を多く



して欲しい、野菜を多めになどと要望が出された。これらの貴重な意見を、本校が目指す開かれた学校、信頼される学校、授業改善に活かしていかなければならない。

道路交通法を再確認



4月26日、第一体育館において、交通安全教室を開催した。講師に八戸モータースクールより宮川輝視・慶長幸高両氏をお迎えし、道路交通法や交通事故の現況を講演していただいた。6月に道路交通法が改正されたが、依然として事故が多発している現況を踏まえた説明に、生徒達は真剣に聞き入った。身近に潜む危険性に驚き、交通法規の遵守の大切さを痛感していた。

H25 青森県高総体



第66回青森県高等学校総合体育大会が、5月31日から6月3日まで青森市を主会場に開催された。本校からは13の競技に選手約350名が参加した。3年生にとっては最後の大会となるため、選手のみならず応援にも熱が入り、各会場では大きな盛り上がりを見せた。

中でも男女テニス部が団体

ベスト8、水泳の佐藤賢人君（カレッジコース3年・堀口中）が1500m自由形第2位、400m自由形第3位に入賞した。また、惜しくも入賞は逃したものの、自己ベストを更新した選手や、1回戦を突破した部も多く、3年間積み重ねてきた練習の成果を思う存分発揮し二高の存在感を示してくれた。

高総体ポスター最優秀賞受賞

県高校総合体育大会ポスターコンクールにおいて、最優秀賞に佐藤晴香さん（美術コース2年・湊中）、優秀賞に安達香那さん（同・下長中）が選ばれ、5月31日に青森市で行われた総合開会式の席上において表彰された。



最優秀賞の佐藤さんの作品は、ラグビーをモチーフとしたもの。力強さを表現した重厚な色彩の上に、スピードを感じさせるシャープな白いブラッシングが印象的な作品である。選手のリアルな表現に終わらず、ボールを運ぶ熱さが伝わる秀作であった。この作品はポスターの他、総合開会式プログラムの表紙を飾った。

本校美術コース生の作品が最優秀作品に選ばれるのは、4年連続19回目となる。

EU加盟国大使による講演会



5月13日、駐日欧州連合（EU）代表部の企画である出張授業「EUがあなたの学校にやってくる」が、本校において開催された。この授業は、EU加盟国が外交官らを全国の高등학교に派遣し、EUについて説明するもので、今年度は全国91校の

一つに本校が選ばれた。

本校には、プリティッシュ・カウンスル駐日代表のジェフ・ストリーター氏が来校され、パワーポイントを用いて講演された。講演では、EU設立の理念や歴史、通貨統一、日本との関係等が紹介され、生徒にとって大変興味深い内容であった。講演後の質疑応答では10名ほどの生徒から手が上がり、ストリーター氏からは丁寧に説明があり、生徒はEUに対する理解を深めていた。

アメリカ高校生交流行事

KAKEHASI Project - The Bridge for Tomorrow -

5月31日、外務省の青少年交流事業（KAKEHASI Project）で、米国ケンタッキー州マレー市にあるCalloway County 中学・高校から、中高生21名と引率教員3名が来校した。

交流会では、様々な歓迎行事が行われた。吹奏楽部による日米両国の国歌演奏、ウェルカムコンサート、マンガ文芸部による自作マンガの紹介と実演、美術コー

スで日本画の体験、昼食交流会、武道実演、生け花体験など盛りだくさんの内容であった。午後からは、新設になった「三陸復興国立公園」に向かった。本校の生徒達による英語のガイドで、種差海岸や蕪島を見学した。米国の生徒は初めて海を見る人がほとんどで、「グレート」「ビューティフル」と歓声を上げていた。その後、31日の夕方から2泊3日で本

校生徒の21家庭にホームステイをし、日本文化を学ぶよい機会にもなり、生徒同士の交流も深めた。

10月には、米国の招待を受け、本校から教員・生徒25名がケンタッキー州を訪問する予定である。



カレッジコース 美術コース

種差ボランティア

6月8日、1学年のカレッジコースと美術コースの生徒約200名が、鮫角灯台周辺のオオハンゴンソウ駆除作業に取り組んだ。オオハンゴン



ソウは、特定外来生物に指定されており、その旺盛な繁殖力のため在来植物の生態系に影響を与えてしまう植物である。

今回は、種差ボランティアガイドクラブ代表の石津正廣氏から「種差海岸景観保全と外来種駆除方法」について講演をいただいた上での駆除作業となった。生徒達は、ヨモギとオオハンゴンソウの区別に戸惑いながらも、ボランティアガイドクラブの方々にアドバイスをもらいながら、1本1本丁寧に駆除作業を進めた。短時間の活動ではあったが、最終的には824本のオオハンゴンソウを駆除することができた。

八戸×北千住のコラボレーション祭り 東北に笑いと音楽を届けよう♪ in はっち

4月27日、八戸市と北千住をつなぎ、東北に笑いと音楽を届けるイベントが「はっち」で開かれ、本校生徒27名がボランティアでこの催しに参加した。この企画を仕掛けたのは、北千住在住の植村昭雄さんと八戸市の外和信哉さんである（二人は本校OB）。植村さんは、東日本大震災後からマッサージや炊き出しなどの被災地支援を行い、外和さんと今回のツアーを企画した。27日のイベントを皮切りに、その後宮城県女川町や気仙沼市、岩手県大船渡市など被災地を巡る。出演者は、東京在住のロックバンドや落語家、八戸出身のミュージシャン「びいだま」やダンサーなど多彩で、参加した生徒も大先輩の役に立とうと、ステージ設営や受付、呼び込みなどそれぞれの担当に懸命に取り組んでいた。



仙 台 関 東 同窓会開催

6月8日に第15回仙台支部同窓会が、6月22日に第36回関東支部同窓会が開催された。昨年度卒業した38回生を中心に集い、恩師や久しぶりに出会う仲間達と和やかに過ごした。また、両支部には昨年度定年退職なさった高坂俊一先生がサプライズ出席し、同窓生達を湧かせた。仙台支部、関東支部ともに阿保民博校長が出席して二高の近況を報告し、今後の二高の発展にこれまで以上の同窓生の力添えを頂きたいと要請した。

参加した同窓生らは、母校の発展に貢献するためそれぞれの場での活躍を誓っていた。

情報ビジネスコース

清掃奉仕活動

6月8日、情報ビジネスコース1～3年生の110名が、蕪島から館鼻漁港にかけての清掃奉仕活動を行った。蕪島周辺は三陸復興海岸としても注目を集める観光名所。生徒達は、観光客や地元の方々に気持ちよく来てもらえるよう、ゴミ拾いに汗を流した。漂流物など様々なゴミの対処に苦戦したもの、3年生がリーダーシップを発揮し、手際よく作業を進めることができた。



美術コース

日本画講習



6月4日～7月5日の約1ヶ月間にわたり、日本画の集中授業が行われた。制作には専門的な知識と技術が必要なため、青森市在住の日本画家、小野定先生に今年も指導して頂いた。

日本画で扱う絵具は「岩絵具（顔料）」で、岩を砕きサラサラした砂のような状態で薬瓶に入っている。そのままでは紙に定着しないので「膠（にかわ）」を使用する。全ての絵具は、「顔料」とそれを定着させる「のり」で出来ており、膠はその「のり」の役割をする。

1年生はスルメと果物。2年生は花。3年生は自由課題。今年は、鯉ヶ郷（十和田市）でのスケッチ実習で描いた絵を元に描く人、花や静物を描く人、自分で取材した題材を描く人など様々で、多様な日本画表現を学ぶことができた。





うんどうかい



～年長 遊戯「ヤーレン!ソーラン・ロック」～

心をひとつに・・・「はあーどっこいしょ!どっこいしょ!」



～年少 親子ゲーム～

「おら、海女ちゃんになる!」



～年中 かけっこ～



「ゴールに向かって一直線!!」

～年中 遊戯「ワイルド アット ハート」～



「元気いっぱい踊ったよ!!」



～八戸工業大学吹奏楽部～

素敵な演奏で盛り上げてくれました。
お兄さん、お姉さん、ありがとう!

「よーし、負けないぞ!」やる気満々で迎えた6月29日の運動会。八戸工大の吹奏楽部によるミニコンサートでリラックスした後、家族に見守られながらいよいよ入場行進開始。たくさんのお客さんに緊張する子もいれば、興奮する子、笑顔の子と様々だった。「見てもらいたい」「いっしょに楽しみたい」、そんな子どもたちの気持ちに、たくさんの声援が送られた。子どもたちは親子が触れ合う親子ゲームや親子ダンスが、特に嬉しそうだった。年齢が上がるにつれ競争心が顕著に表れ、力を合わせる事が自然とできるようになっている。多くのことを学ぶ機会となる今年の運動会も無事に終わった。



孫と私の幼稚園生活

さくら幼稚園には、孫がすでに二人お世話になりました。一番上が小学5年生、二番目が1年生、そして三番目の孫が、今「年中」です。

一年前の入園式には、「行きたくない」と泣いて式に出ずに帰ってきた孫が、今では先生が大好きで、「先生大好きって書いて」と言って、毎日のようにお花を持って出かけます。運動会やなかよし祭、クリスマス会といった行事があると、「今日は〇〇を練習したよ」と張り切って報

告してくれ、見に行くのがとても楽しみです。

朝、園に着くと、どんな時も園長先生が外で出迎えて下さいます。何事にも子どもたちの事を一番に考えて下さる先生方に感謝しています。幼稚園生活もあと二年で終わりかと思うと寂しいですが、これからも楽しんで孫の成長を見守っていきたいと思います。



(もも組 上野真太郎ちゃんのお祖母さん) 荒谷 スミさん



ようちえんってこんなところ



年長の畑



「野菜の苗を植えました。大きな一れ！」

遠足



「ゆらゆら揺られて、楽しいね！」

幼年消防クラブ編入式



わぁー本当の消防士になったみたい!!

交通安全教室



「車が来ないか、よく見て渡ろうね」



とらんぽりん

～ある日の保育日誌～



年少組 5月21日(火)

年中組 5月17日(金)

年長組 5月24日(金)

細長い画用紙を“一発切り”してプリンのカップに入れ、マラカスを作った。はさみの扱いにも少しずつ慣れ、すぐに切り終えた。最後に好きな色のビニール



「チョッキン!チョッキン!難しいな～」

テープを切ってカップに貼ったが、そのテープを切るのが少し難しかったようだ。それでも「できない」と投げ出す子もなく全員が完成させた。幼くても黙々と取り組む集中力には驚かされる。完成したマラカスをさっそく手に持って、思い思いに音を出して確かめ合っていた。全員で歌に合わせて振ると「わぁー、楽しい!」と大喜び。瞳を輝かせる子どもたちに、今度は何にしようかなと思いが膨らんでくる。

今年度初めての保育参観日が、和やかな雰囲気で行われた。自己紹介に時間がかかり、退屈そうな様子の子もいたが、子どもも親もそれぞれ好きな食べ物を発表したり、ほかの親子の話を興味深そうに聞いたりしていた。笛に合わせて子どもたちが移動する

じゃんけんゲームでは、負けた方が勝った方に頭を撫でてもらう姿がとても微笑ましかった。クラス全体の触れ合いと親睦が図られたのではないと思う。親御さんたちは、子どもたちの話に出てくる名前の子の顔が覚えられたことでしょう。



「さくら丸号☆皆を乗せて、いざ出発!!」

皆が楽しみにしていた遠足。あいにくの曇り空だったが、子どもたちにはかえって歩きやすかったようだ。昨年の遠足で経験済みのスパイダーネットは、家族と一緒に遊んだことがある子が多かったので、「ヤッホー、先生こだよ」と手を振ってくれた。遊具で遊んだあと、山羊や孔雀、うさぎ、猪、猿などを見て回った。「かわいい」「くさい」という素直な声が聞こえていたが、中には「早くお弁当食べたい」と動物よりお母さんが作ってくれたお弁当を楽しみにしている子もいた。帰りのバス

の中は疲れたのか、寝ている子が何人かいた。さすがに外に出ると体力を使うんだと思った。もちろんお弁当は、ほとんどの子が完食だった。



理事会・評議員会

学校法人八戸工業大学の理事会及び評議員会が下記により開催され、審議の結果全議案原案通り承認された。

◇5月24日 理事会・評議員会

- ・平成24年度事業報告に関する件
- ・平成24年度決算に関する件
- ・平成24年度監査報告に関する件
- ・平成25年度学費減免に関する件
- ・評議員の退任に伴う補欠評議員の選任に関する件

◇6月21日 理事会

- ・八戸工業大学第二高等学校「学則」改正に関する件
- ・さくら幼稚園「園則」改正に関する件

編集後記

5月下旬、震災で被災した青森から宮城にかけての沿岸部にある6つの自然公園が再編され、「三陸復興国立公園」として指定を受けた。その一つが、八戸市の「燕島・種差海岸」と階上町の「階上岳・階上海岸」である。

今回編入された天然記念物のウミネコの繁殖地「燕島」、天然芝の「種差海岸」、約2万本の山つつじが群生する「臥牛山（がぎゅうざん）」の異名のある標高740mの「階上岳」、変化に富んだ「階上海岸」は、どれも地域の住民が自分の庭のように感じ親しんできた場所である。さらに環境省は、2015年までに「燕島」から福島県相馬市の「松川浦」まで、地域の自然環境や暮らし、震災の痕跡、利用者と地域の人々などを様々に結ぶ「みちのく潮風トレイル」という長距離自然歩道を整備するという。

北の玄関口となった八戸には、これから多くの観光客やハイカーが訪れることだろう。しかし、観光客の増加が期待される一方で、植生への影響が懸念されている。ゴミ一つ落ちていない種差海岸は、これまで地域住民をはじめとする各種団体、児童・生徒らボランティアによって、その美しい景観が保たれてきたという。6月初旬、第二高校の1年生が、指定を受けた国立公園のエリアで外来植物の駆除を行ったことが報道された。今年3月に閉校した地元八戸南高校の生徒らの活動を第二高校が引き継いだのだそうだ。

大切な役目を担う二高の皆さん、地元の貴重な宝を守るために頑張って下さい。